令和２年度　第２回埼玉県公立大学法人埼玉県立大学評価委員会　議事録

日　　時　令和２年８月２０日（木）午後１時５０分～午後２時５０分
場　　所　埼玉会館７階　７Ａ会議室
出席委員　佐藤委員長、菊池委員、吉野委員、間嶋委員
県側出席者：縄田保健医療政策課長　ほか

○　次　第
　１　開　会

　２　議　事
　　公立大学法人埼玉県立大学の令和元年度業務実績評価について
　　公立大学法人埼玉県立大学の第２期中期目標期間業務実績見込み評価について

　３　閉　会

○　結　果
　１　開　会
　（定足数の充足）
　　評価委員会規則第５条第２項に規定する定足数（委員の過半数の出席）を満たし、会議が成立していることを確認した。
　（会議の公開）
　　評価委員会規則第７条に基づき、会議の公開を決定した。（傍聴者なし）
　（議事録承認）
　　令和２年度第１回埼玉県公立大学法人埼玉県立大学評価委員会（令和２年７月２０日開催）の議事録の確認を行い、正式な議事録として承認した。

　２　議　事
　【議事録署名委員の指名】
　・　評価委員会規則第８条第２項に基づき、佐藤委員長が吉野委員を議事録署名委員に指名した。

　【議事説明】
　・　事務局から「公立大学法人埼玉県立大学令和元年度業務実績評価書（案）」及び「公立大学法人埼玉県立大学第２期中期目標期間業務実績見込み評価書（案）」について資料に基づき説明。

　【質疑等（意見含む）】
　　間嶋委員：県内就職率が大きく下がってしまったことは非常に残念である。そこで、税理

士として、私が民間会社の決算等々でしていることを少し説明させていただきたいと思う。

例えばある会社から数字をいただき、分析をして全社的に見た時に損益がトントンである、という会社があるとする。そうすると、トントンだったのですねっていうことで終わってしまうわけではなく、そこに実は三つの部門があり、それぞれで見てみると、一つの部門は大きな赤字、一つの部門は大きな黒字、一つの部門は損益がトントン、トータルで損益がトントン、というような会社が実際にある。部門別に分けるといろいろ数字が見えてくるところがあり、売り上げが伸びているとか、原価が増えているという事象について、役員会に行き、説明をして、私が進行役になっていろいろとディスカッションをやるのだが、その時に答えを知っているのはやはり会社の人達である。要は、学校のことは大学の方がよく知っている。

ですから、なぜこれはこうなっているのか、例えば、売上額がなぜこうなったのかをお聞きすると、そういえばこんなことがあった、じゃあそれって一時的なことなのか、それとも継続的に今後の取引先の仕事が少なくなるのか、環境はどうなのか、というようなことをお聞きしながら、話を進めていく。

役員会の中で話をしていると、そういえばこんなことがあったし、これじゃやっぱりまずいよね、という話が皆さんそれぞれいろいろと思い出されてくる。

そうした中で、私がまた音頭を取り、それではいつまでに誰がどんな形でそれをするようにしましょうか、と言う。そうすると、営業をもっとどこどこに仕向けて仕事を取ってくるようなことを自分の部門で率先してやりましょう、みたいな前向きな意見が出てくる。

大学を見てもやはり各学科があって、民間企業の場合と同じように、達成できなかった理由の検証やその学科に特有の対策というものが必要なのではないかと思う。

例えば理学療法学科の県内就職率は令和元年度６５．７％で６０％を超えていると言いつつ、平成３０年度は８７．２％であった。また、２９年度は７０．２％、２８年度は５１．４％である。

そうすると、２８、２９、３０年度と数字が上がっているので、これはなぜ上がったのか、どのようなやり方でやったらこれが上がったのかと。また、令和元年度は目標を上回ったとはいえ前年度と比べれば２１．５ポイント下がっているのだから、なぜこれは下がったのかということを具体的に検討し、それを糧に目標達成に向けて取り組んでいただきたい。

評価書に書くとこのようなきれいな言葉になるが、実際にできる、効果がある取組をしてほしい。今年度、県内就職率が良くなることを期待している。

吉野委員：間嶋委員のおっしゃることは私も企業人なのでよくわかる。県の事務局から大学の先生方にしっかりと伝えていただきたい。

私の肌で感じるところでは、令和元年度までやはり経済は拡大基調にあった。前回の評価委員会では進路指導の先生から、埼玉県の病院に就職したい学生が他

県の大学の学生さんとの戦いに負けてしまったというような話があった。また、健康開発学科の学生達はやはり若干大企業志望が強いのかなと思う。

今年度はかなり就職が厳しいということは、前回も申し上げた。それから教育についても、県立大学も前期は全部ロックアウトでオンライン授業だけ、それでどうやって教育の質を保てるかということと、それから学生にいかにキャンパスに来てもらい、学校の良さを感じてもらえるかという努力は、大学として今後いろいろな方法でやられるのだろうと思う。毎年々々積み重ねて良い方向に来ているので、ぜひ令和２年度についても、少しでも向上点が多い報告書を我々が見させていただくように期待したいと思う。

佐藤委員長：極論すると県内就職率だけが足を引っ張っているようなところがあるが、大学の方としても、今２人のご指摘のように各学科で分析はされているのですよね。

ただ、なかなか切実なものが大学から伝わってこない。

事 務 局：大学では学科専攻別に進路支援の担当教員を置くとともに毎年卒業生にアンケートを実施し、その回答を元に分析を行っている。

新たな対策も講じており、令和元年度については、例えば公務員の県内就職を支援するということで県内自治体の採用説明会を行い、実際に県内の保健所などに就職をするといった効果が出ている。

ただ、切実に県内就職を追求していくというところでもう一段、学科専攻別に検討していただく必要があるとの御指摘だと思う。今日、いただいたお話はしっかり大学に伝え、学科専攻別にもう一度これまでの取組を検証し、対策に具体的に取り組むということを要請したい。

佐藤委員長：昨年度の評価委員会でも話があったが、学科ごとにどこまで目指すのかという数字は持っていた方がいいのかもしれない。

菊池委員：学生達の進路ということで、大学にいる者として少し関連するお話をさせていただきたい。

私の在籍している大学は社会福祉学部の単科大学で、学生全員が社会福祉士試験を受験し、また進路も社会福祉関係に行くようにということで、一般に社会福祉学部の学生達は、ほとんどが民間の、社会福祉とは関係ないところに就職する中で、なぜ多くの学生を社会福祉関係に行かせる教育ができているのかということを、他の大学の教員などから聞かれることがある。

それは一つには、入学時にそうした意識の高い学生が多いということ。ですので、今年就職された学生達が入学したのは４年前なので、４年前に何があったのか、というのは学年ごとにかなりカラーがある。

先ほど分析というお話があったが、連続して見ていくことも必要で、先輩達がどうだったかということもまた下級生に影響してくるかもしれない。そうしたことからすると、やはりこの県内就職率の数値は深刻に受け止めるべきであろうと思う。

ただ、先ほどお話したように私の在籍大学では、学生が皆、社会福祉関係の仕事に進むよう教育をしていることからいうと、県立大学の学生達は保健医療福祉

と関係のないところに流れて行ってしまっているわけではないので、それが県内かどうかはあるが、志を持って、自分が学びたいと思った方向に進んでくれていることは、ホッとする材料である。大学にいる学生達が就職先を選んでいくということに関して、現場で感じていることを少しお話させていただいた。

佐藤委員長：皆さんがおっしゃってるのは、来期の中期計画をよく考えて、ということだと思うので、事務局は踏まえていただければと思う。

間嶋委員：評価書で言葉の訂正をお願いしておきたい点がある。

資料２の７ページ、下から二つ目の「３　資産の管理運用について」に載っているが、ここに四半期ごとの資金計画云々と書いてある。

安全性、確実性の観点から定期性預金での運用と書いてあるが、ペイオフの観点から見ると定期性預金も対象になる。

そこで、前半部分は同じであるが、「四半期ごとに資金（収支）計画を作成し、余裕資金についてはペイオフ制度によるリスクを考慮した上、安全性、確実性の観点から預入れ先の金融機関及び預貯金の種類を選定して運用を行っている。」というふうなことで書いていただければいいかなと思う。

佐藤委員長：資料１にも同様の記述があるが。

間嶋委員：そこは合わせてもらえれば。

菊池委員：二点お話させていただく。

一つは、前回机上配付された「保健医療福祉お仕事GUIDE BOOK」を読ませていただき、漫画を使って高校生、それから中学生にもという意識で作成されたということで、大変いい試みだと思った。

パンフレットの看護師のページに県立大学の先生がコメントをつけているのだが、看護師というと学生は皆大きな病院に就職する志向だけれども、今は在宅の訪問看護ステーションなども大事であり、そういう就職先もあるんですよというメッセージが書かれていて、こうしたメッセージが入学前に学生に伝えられ、動機付けがあって、そして学んでいくと、学生の就職先の志向が違ってくると思う。今、県立大学が田中理事長のもと地域包括ケアシステムの構築に向けた取組を進めていく時に、そこから輩出していく人材ということでも大変いい試みだと思った。

また、ソーシャルワーカーについては一体どういう仕事をするのか、とても一般には分かりにくく、でも実は地域包括ケアシステムでも大変重要な要になるような人材で、それはパンフレットの中でソーシャルワーカーがどういう仕事なのかということが高校生、中学生にも分かりやすく説明されていたと思う。先輩から話してもらうような形のパンフレットもいいかもしれないし、早くからの動機付けが４年後の進路決定に繋がっていく。

４年生になってから県内に就職をと言っても難しい。入学前から取り組んでいただくと、今は高大連携ということが言われているので、そういう循環で人材をつくっていくことができるといいと思った。

それともう一つは、やはり理事長、学長のリーダーシップを感じた。教職員の

皆さんの信頼を得て、業績評価の給与への反映を短期間で実現できたのは、強いリーダーシップによるものだと思う。そこで、ＩＲシステムを入れることについてだが、今スピード感を持って運営していかなければいけないという時に、トップが早く判断し、そして決定していくという、そのためのＩＲシステムということだと思う。短期間に構築されたが、教員の皆さんの理解や、運用についての共通認識を持つことが大事である。いろいろなデータがＩＲシステムに入ってくるとなると運用の仕方によっては危険なことにもなりかねない。今後の運用が重要となる。

佐藤委員長：それは大学側に伝え、来期の中期計画に反映してもらいたいとのご意見ということでよろしいか。

菊池委員：はい。

【議決】

・「公立大学法人埼玉県立大学令和元年度業務実績評価書（案）」と「公立大学法人埼玉県立大学第２期中期目標期間業務実績見込み評価書（案）」を間嶋委員から指摘があったとおり修正し、委員長が確認をしてまとめることで了承。

【通知・意見書】

・知事及び法人への通知文の案を了承。

【本日の委員会議事録】

・メール等で各委員が確認・了解した上で、委員長が最終決定することとした。

３　閉 会